

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2008年第52週
(12月22日～12月28日)

- * 2009年1月6日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「性器クラミジア感染症」も掲載しています。

平成21(2009)年1月7日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2008年52週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		49週	50週	51週	52週		52週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							2
	結核	72	79	72	50	4320	335	27737
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
	鳥インフルエンザ (H5N1) **							
三類	コレラ					6		45
	細菌性赤痢	1	2	1		64	4	318
	腸管出血性大腸菌感染症	3	3	2	3	409	13	4307
	腸チフス	1				13	1	57
	パラチフス	1			1	7	1	28
四類	E型肝炎					7	1	43
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1			1	31		170
	エキノкокクス症							17
	黄熱							
	オウム病							9
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					1		3
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病		5	1	2	18	17	434
	デング熱	2				32	2	104
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							132
	日本脳炎							3
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							4
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							2
マラリア			1		23	3	57	
野兎病							5	
ライム病							5	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	1	2	2	1	80	10	884	
レプトスピラ症					4		42	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		49週	50週	51週	52週		52週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3	2	2	3	189	14	861
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)					30	2	236
	急性脳炎 ***	1				11	2	182
	クリプトスポリジウム症					4		9
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		15	3	148
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					19		111
	後天性免疫不全症候群	10	18	11	2	543	11	1532
	ジアルジア症			1		20	1	75
	髄膜炎菌性髄膜炎					2		10
	先天性風しん症候群							
	梅毒	4	11	5	4	205	6	823
	破傷風					5	1	120
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					15		80
風しん				1	45	1	303	
麻しん	3	2	3		1174	12	11005	
2009/1/6集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** 2008年5月12日から指定された。

*** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 50件 肺結核32件、その他18件で、推定感染地は国内49件、ラオス1件。年齢は10歳代1件、20歳代4件、30歳代9件、40歳代8件、50歳代6件、60歳代9件、70歳代4件、80歳代7件、90歳代2件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 3件 有症状者2件、無症状病原体保有者1件で、血清型・毒素型はO157(VT1VT2) 1件、O145(VT2) 1件、O119(VT1) 1件であった。年齢は5歳未満1件、30歳代2件であった。O145(VT2)の1件は、第48週・49週に計7件報告された保育園の事例と関係している。

パラチフス 1件 推定感染地はバングラデシュで、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 1件 推定感染地は国内で、すし喫食との関連が疑われている。

つつが虫病 2件 推定感染地は島しょ地域2件であった。1件は学術調査中に刺咬されたと推定されている。

レジオネラ症 1件 肺炎型で、自宅風呂での感染が疑われている。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 3件 腸管アメーバ症1件、腸管外アメーバ症2件で、推定感染地は国内2件、国外1件(国/地域名不明)。推定感染経路は飲食物による経口感染2件、不明1件であった。

後天性免疫不全症候群 2件 無症候性キャリア1件、AIDS 1件で、推定感染地は国内1件、アメリカ1件、推定感染経路は性的接触2件(同性間1件、異性間1件)であった。

梅毒 4件 早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症候1件で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路はすべて性的接触(同性間1件、異性間2件、性別不明1件)であった。

風しん 1件 臨床診断例の10歳未満女性。風しん含有ワクチン接種歴は1回であった。

定点把握対象疾患 報告数 2008年52週

定点種別	対象疾患	2008年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		49週	50週	51週	52週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	99	77	50	39	0.27	145	150
	咽頭結膜熱	56	65	52	37	0.26		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	335	415	457	337	2.32		
	感染性胃腸炎	2,292	2,800	2,678	2,070	14.28		
	水痘	193	264	252	286	1.97		
	手足口病	44	61	56	27	0.19		
	伝染性紅斑	28	41	39	28	0.19		
	突発性発しん	82	84	92	64	0.44		
	百日咳	7	12	4	6	0.04		
	ヘルパンギーナ	13	9	13	10	0.07		
	流行性耳下腺炎	88	90	100	97	0.67		
	不明発しん症(注1)	11	4	16	10	0.07		
	MCLS(川崎病)(注1)	3	2	2	2	0.01		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	478	674	1,137	1,436	5.18	277	290
眼科	急性出血性結膜炎	0	0	3	0	0.00	37	39
	流行性角結膜炎	12	10	16	17	0.46		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	2	0	0	0	0.00	21	24
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	5	10	8	12	0.57		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0	0	2	0.10		
2009/1/6集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は減少した。過去5年平均と同様の推移であるが、依然警報レベルにあるので、引き続き注意が必要である。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は増加した。保健所単位で注意報レベルに達していた地域はなかったが、今後も増加する可能性が高いので、引き続き注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

- 目黒区保健所管内定点医療機関
- ・感染性胃腸炎の2歳児はカンピロバクターによるものでした。
- 太田区保健所管内定点医療機関
- ・アデノ迅速検査(+)。扁桃炎多し。

* インフルエンザに関するコメントは13～14頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2008年52週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	9			12	3		1	2		
～11か月	11		1	135	15	1	3	28		2
1歳	15	9	10	280	52	6	3	30		2
2歳		3	10	202	43	7		3		2
3歳	2	4	28	199	54	4	2	1		
4歳	1	6	42	155	45	2	4			2
5歳	1	3	50	147	29	2	3			1
6歳		3	43	131	23		3			
7歳		1	40	123	6	1	5			
8歳		3	31	88	6		1			
9歳			19	72	2	1	2			
10～14歳		3	38	173	4	3	1			
15～19歳			3	38					1	
20～29歳		2	22	315	4				5	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	39	37	337	2070	286	27	28	64	6	10
先週比	-11	-15	-120	-608	34	-29	-11	-28	2	-3

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		1	1	4		
～11か月		3		17		
1歳	1	2		38		
2歳	7	1	1	40		1
3歳	17	1		65		
4歳	20	2		77		1
5歳	10			83		1
6歳	12			84		1
7歳	10			99		
8歳	5			86		
9歳	4			70		
10～14歳	8			201		
15～19歳	1			51		
20～29歳	2			142		5
30～39歳				201		4
40～49歳				110		1
50～59歳				41		
60～69歳				16		3
70～79歳				7		
80歳以上				4		
合計	97	10	2	1436		17
先週比	-3	-6		299	-3	1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数 【年齢階級別】 2008年52週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳	1	
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	1	

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2008年52週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				17				1		
中央区				13						
みなと		3	14	129	2		2	3		
新宿区	2	2	6	58	14			2		
文京			2	24	8	1		2		
台東	3		2	59	6	1				2
墨田区	4		9	49	13	1				1
江東区	1		9	125	4		1	3		2
品川区			10	82	4		1	3	1	2
目黒区			8	16	2		2	2		
大田区	3	3	13	163	21	1	14	6	1	
世田谷	3		8	121	11	3	1	2		
渋谷区				35	5	1		1		
中野区			1	84	15	1		3		
杉並	2	3	6	78	4		1	6		
池袋				18	5					
北区			10	64	4			2	1	
荒川区		1	5	44	16			1	1	
板橋区				32	8	1				
練馬区			3	53	17			1	1	
足立		1		64	6	1		2		
葛飾区			3	53	14	1		3		
江戸川	4	17	72	83	12	1		3		1
八王子市	2	4	52	119	9	4	2	7		
西多摩	1		5	32	12	5	1	1		
南多摩	2	1	12	41	9				1	1
町田	3		55	160	23	3	3	1		1
多摩立川		1	2	34	22	1				
多摩府中			3	81	8			4		
多摩小平	9	1	27	136	8	1		5		
島しょ				3	4					
東京都合計	39	37	337	2,070	286	27	28	64	6	10

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2008年52週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				15		
中央区				4		
みなと	2	2		42		
新宿区		1		31		3
文京	2			17		2
台東	3			19		
墨田区	1			21		
江東区	7			68		2
品川区	7		1	19		
目黒区				5		
大田区	2	1		94		1
世田谷	9			78		
渋谷区	1			29		
中野区	2			42		
杉並	1			60		
池袋	1	1		28		
北区	1			39		1
荒川区	6			21		
板橋区				47		
練馬区				71		
足立	5			46		
葛飾区	4			57		
江戸川	7			104		2
八王子市	9	4	1	43		3
西多摩				44		
南多摩	5			70		
町田	16	1		56		
多摩立川				37		
多摩府中				93		
多摩小平	6			136		3
島しょ						

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市	1	
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	97	10	2	1,436	-	17
-------	----	----	---	-------	---	----

東京都合計	1	
-------	---	--

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2008年52週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				4.25				0.25		
中央区				6.50						
みなと		0.50	2.33	21.50	0.33		0.33	0.50		
新宿区	0.33	0.33	1.00	9.67	2.33			0.33		
文京			0.67	8.00	2.67	0.33		0.67		
台東	1.50		1.00	29.50	3.00	0.50				1.00
墨田区	1.33		3.00	16.33	4.33	0.33				0.33
江東区	0.25		2.25	31.25	1.00		0.25	0.75		0.50
品川区			2.00	16.40	0.80		0.20	0.60	0.20	0.40
目黒区			2.67	5.33	0.67		0.67	0.67		
大田区	0.33	0.33	1.44	18.11	2.33	0.11	1.56	0.67	0.11	
世田谷	0.38		1.00	15.13	1.38	0.38	0.13	0.25		
渋谷区				8.75	1.25	0.25		0.25		
中野区			0.17	14.00	2.50	0.17		0.50		
杉並	0.33	0.50	1.00	13.00	0.67		0.17	1.00		
池袋				4.50	1.25					
北区			2.50	16.00	1.00			0.50	0.25	
荒川区		0.50	2.50	22.00	8.00			0.50	0.50	
板橋区				6.40	1.60	0.20				
練馬区			0.60	10.60	3.40			0.20	0.20	
足立		0.20		12.80	1.20	0.20		0.40		
葛飾区			0.75	13.25	3.50	0.25		0.75		
江戸川	0.80	3.40	14.40	16.60	2.40	0.20		0.60		0.20
八王子市	0.50	1.00	13.00	29.75	2.25	1.00	0.50	1.75		
西多摩										
南多摩	0.50	0.25	3.00	10.25	2.25				0.25	0.25
町田	0.75		13.75	40.00	5.75	0.75	0.75	0.25		0.25
多摩立川		0.17	0.33	5.67	3.67	0.17				
多摩府中			0.30	8.10	0.80			0.40		
多摩小平	1.50	0.17	4.50	22.67	1.33	0.17		0.83		
島しょ				3.00	4.00					

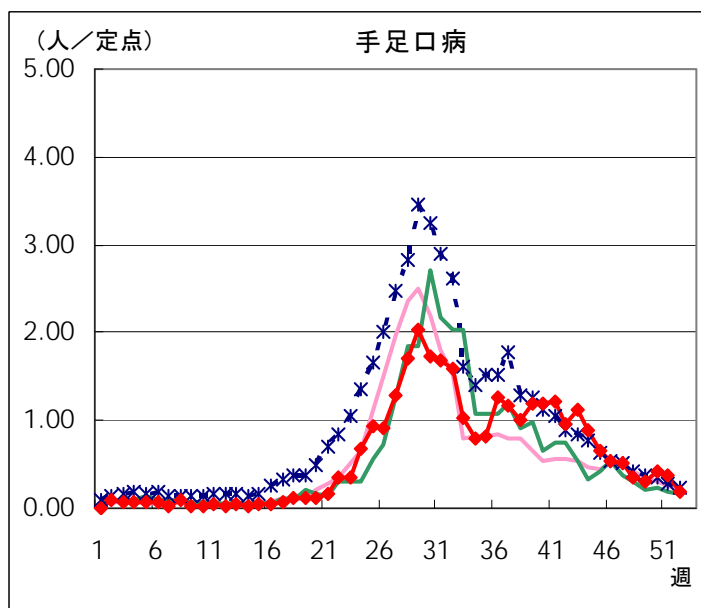
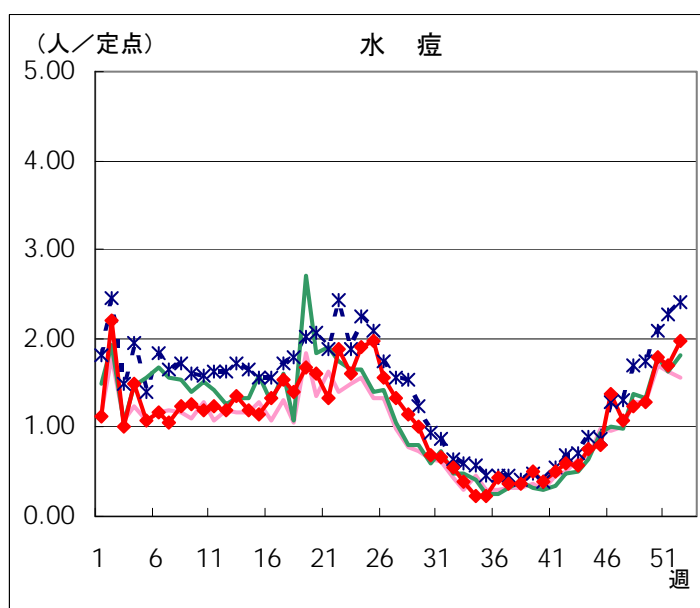
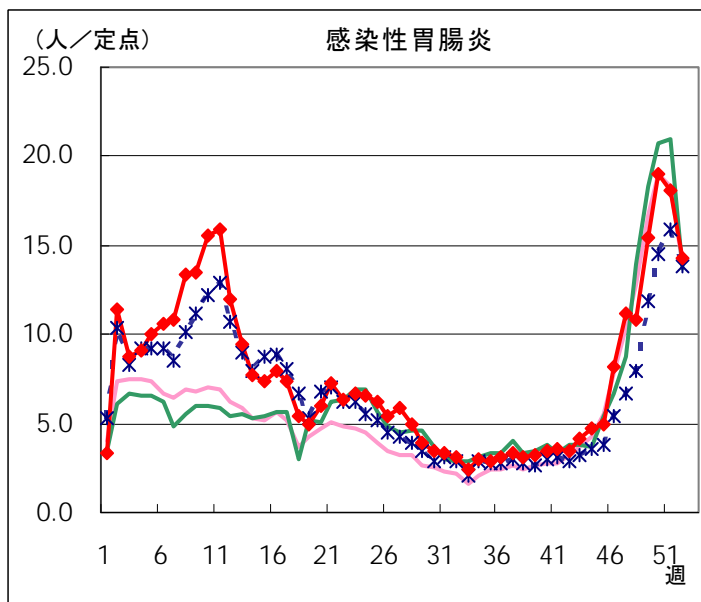
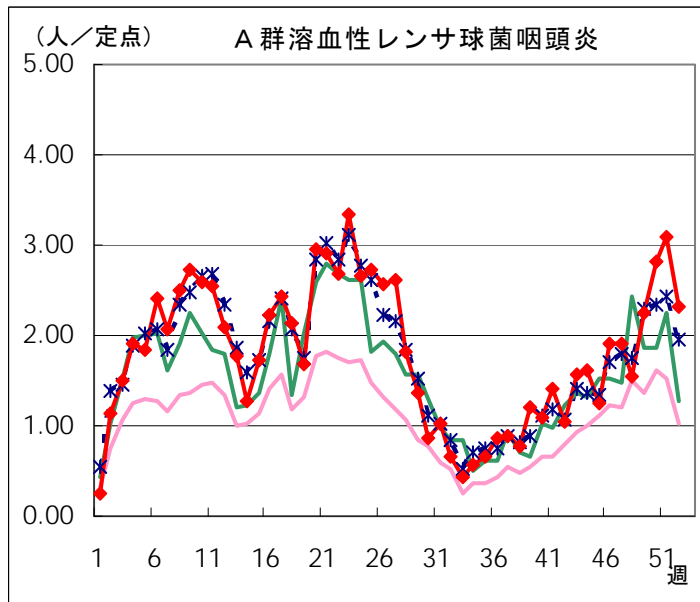
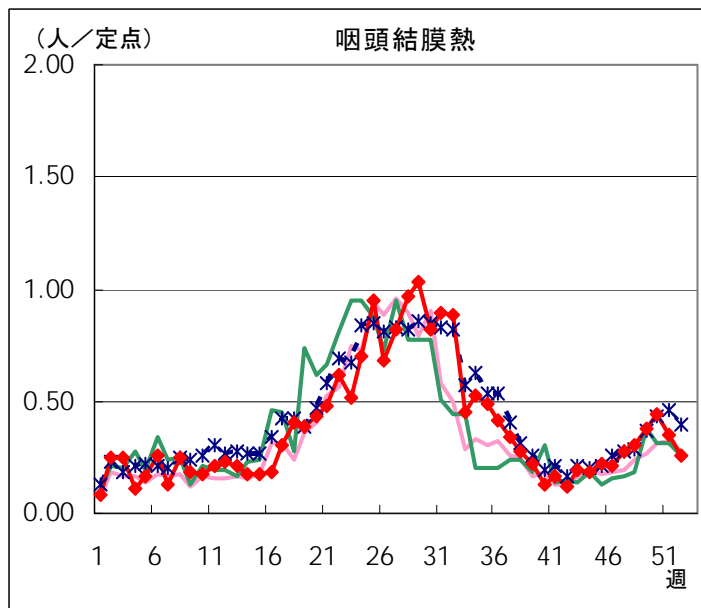
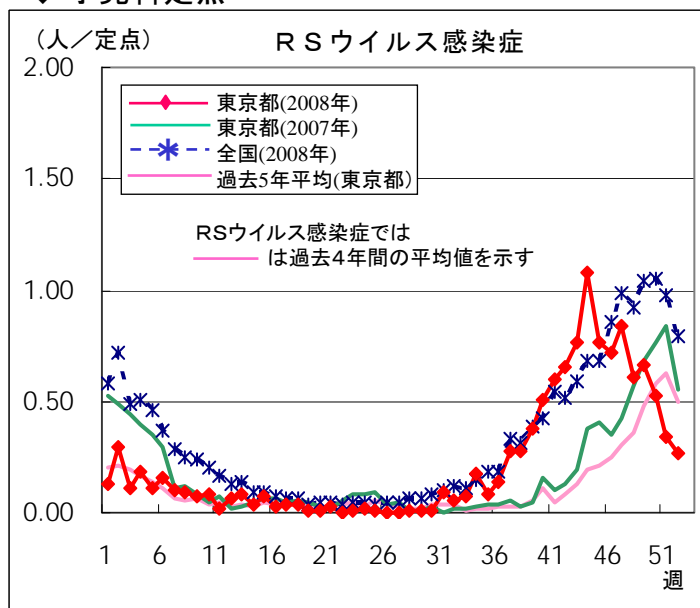
東京都	0.27	0.26	2.32	14.28	1.97	0.19	0.19	0.44	0.04	0.07
-----	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------

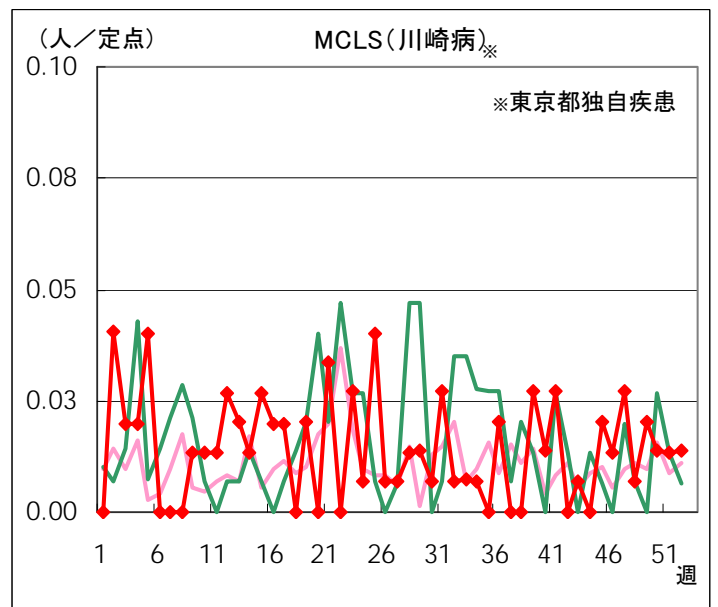
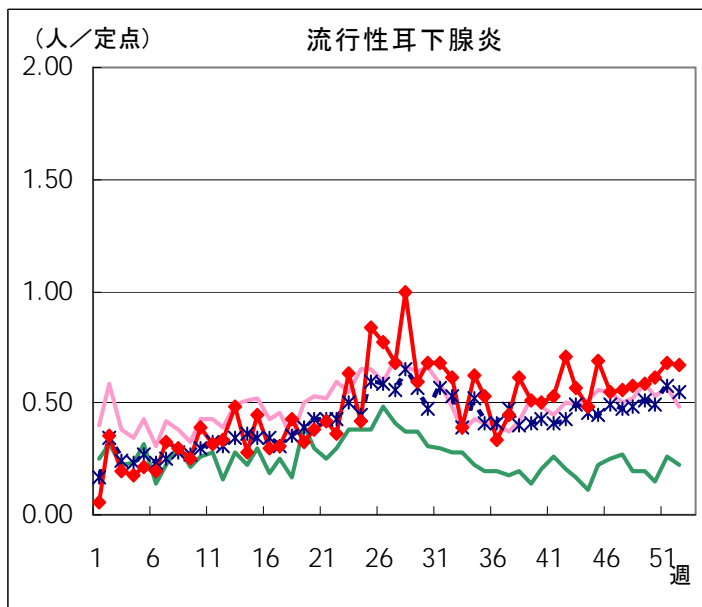
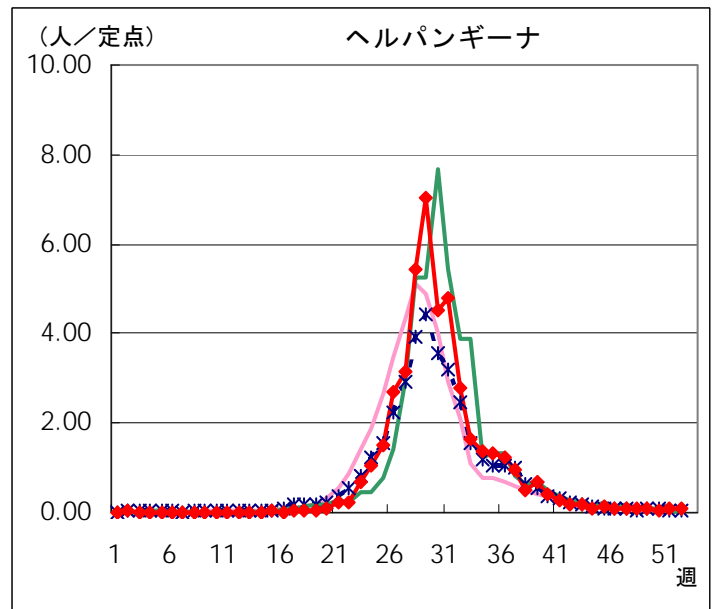
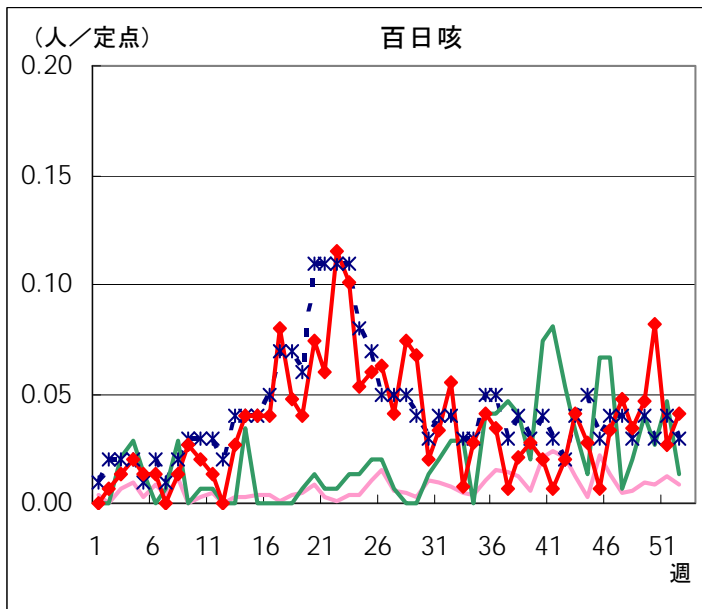
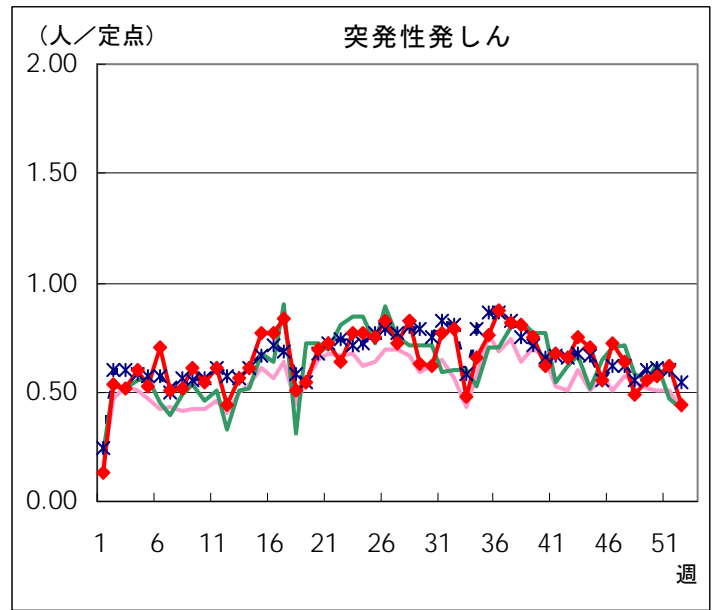
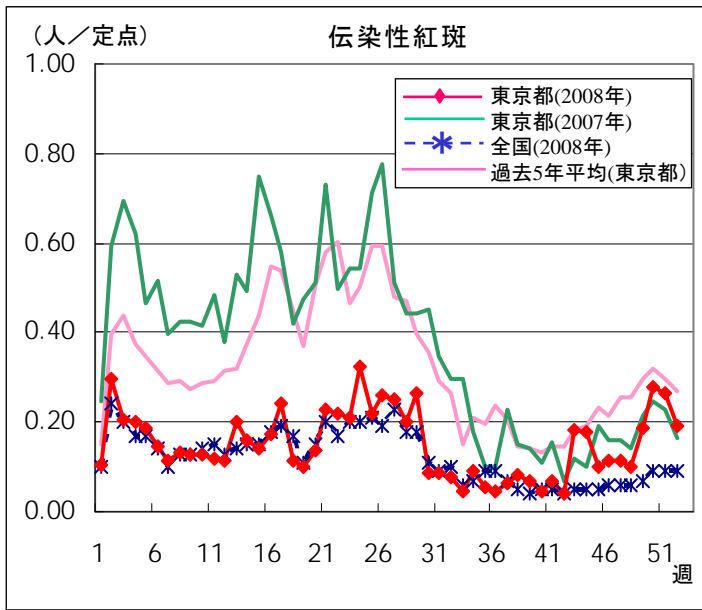
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				3.00		
中央区				1.33		
みなと	0.33	0.33		5.25		
新宿区		0.17		3.44		1.50
文京	0.67			3.40		2.00
台東	1.50			4.75		
墨田区	0.33			3.50		
江東区	1.75			7.56		2.00
品川区	1.40		0.20	2.11		
目黒区				0.83		
大田区	0.22	0.11		5.88		0.50
世田谷	1.13			5.20		
渋谷区	0.25			4.83		
中野区	0.33			4.67		
杉並	0.17			5.00		
池袋	0.25	0.25		4.00		
北区	0.25			6.50		1.00
荒川区	3.00			5.25		
板橋区				4.70		
練馬区				5.92		
足立	1.00			3.83		
葛飾区	1.00			6.33		
江戸川	1.40			8.67		1.00
八王子市	2.25	1.00	0.25	4.78		1.50
西多摩				4.89		
南多摩	1.25			7.78		
町田	4.00	0.25		6.22		
多摩立川				3.36		
多摩府中				4.65		
多摩小平	1.00			9.71		1.50
島しょ						

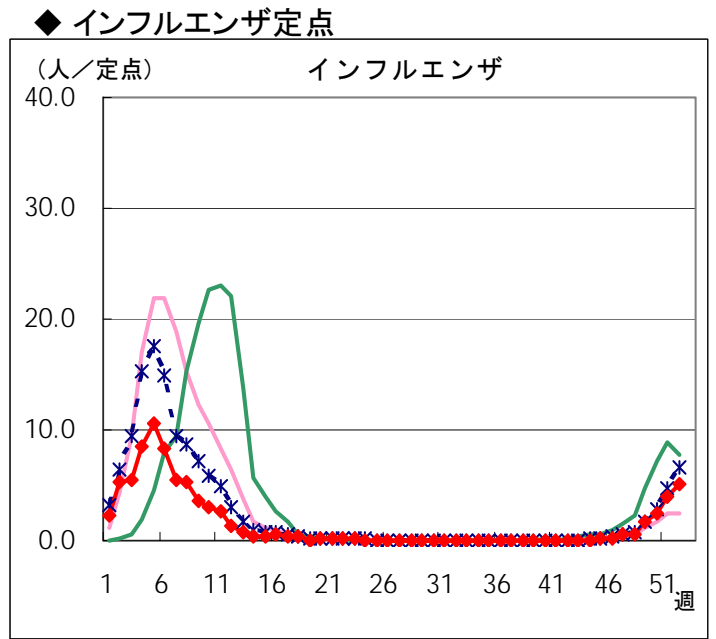
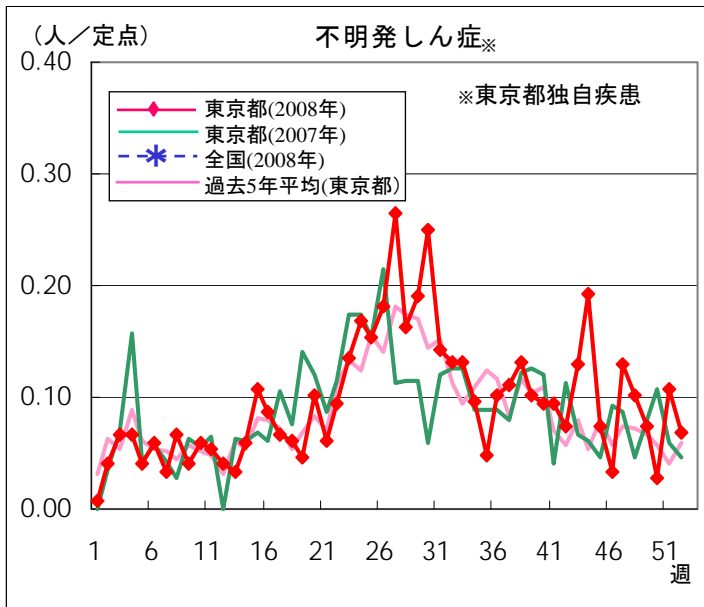
東京都	0.67	0.07	0.01	5.18	-	0.46
-----	------	------	------	------	---	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2008年52週現在

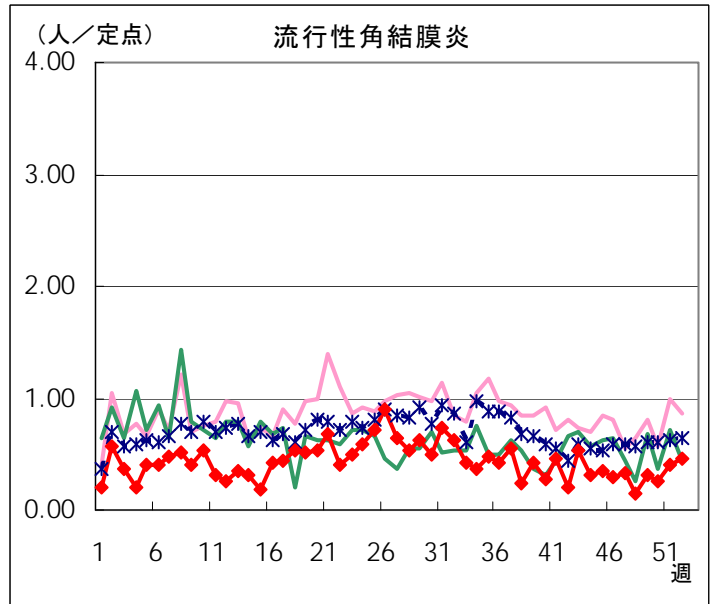
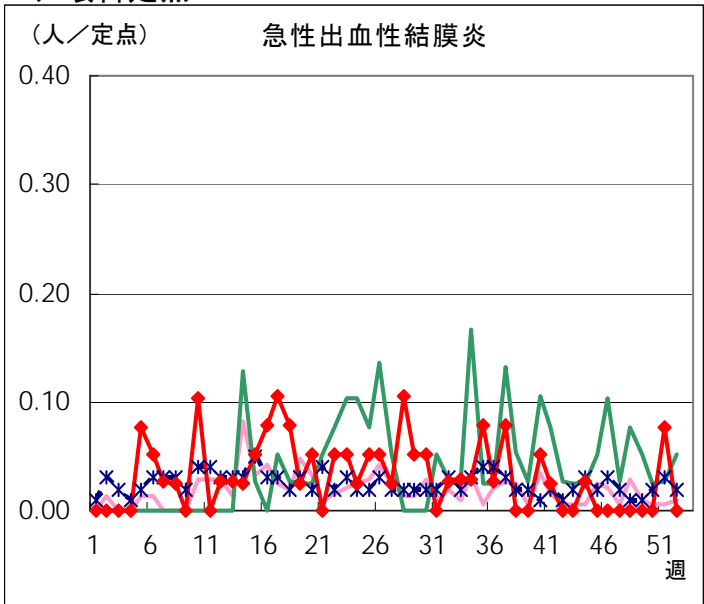
◆ 小児科定点



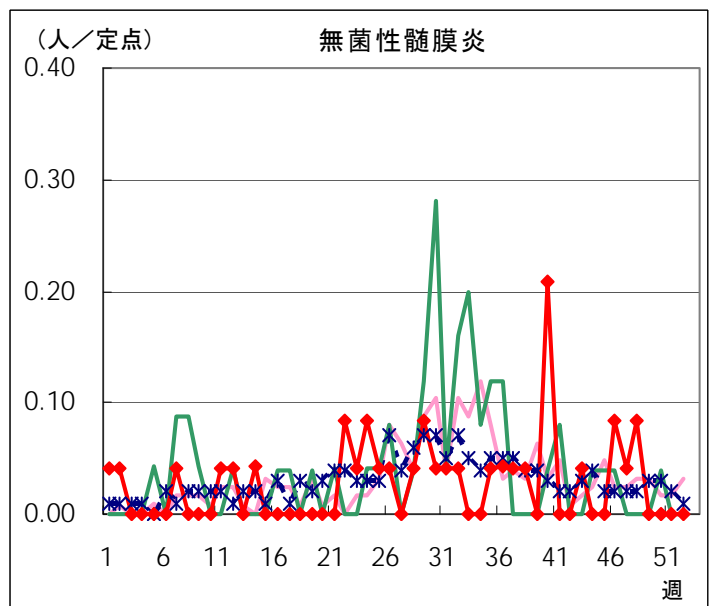
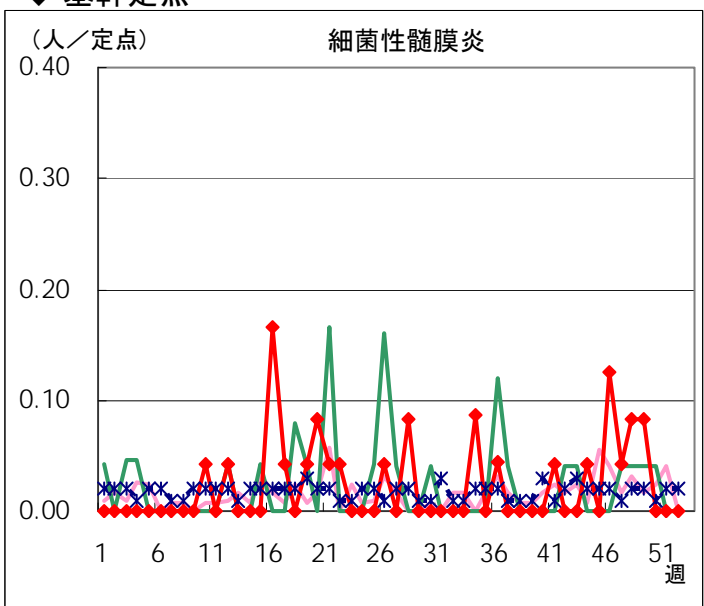


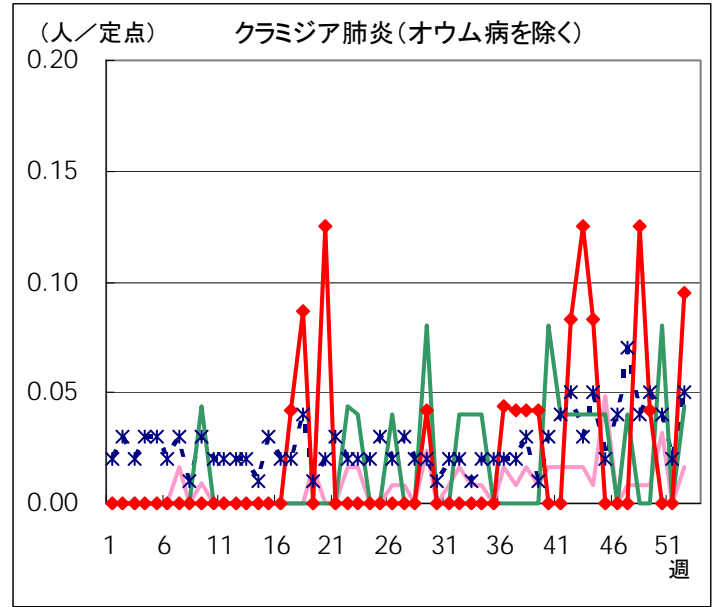
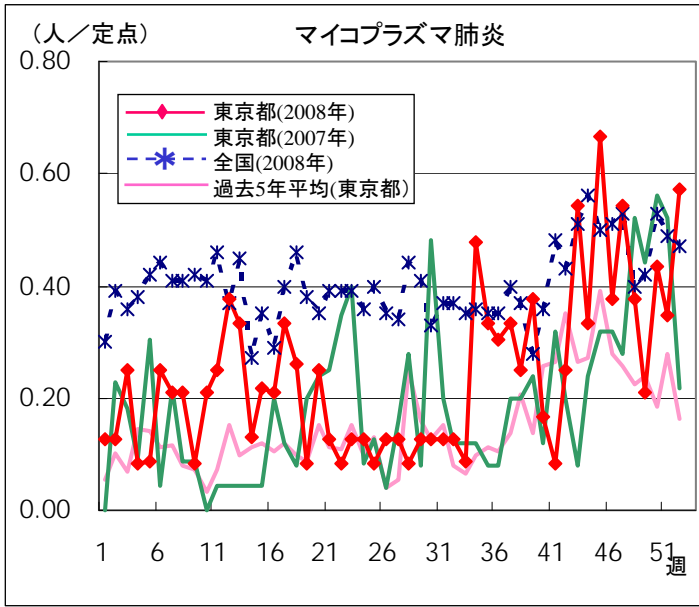


◆ 眼科定点

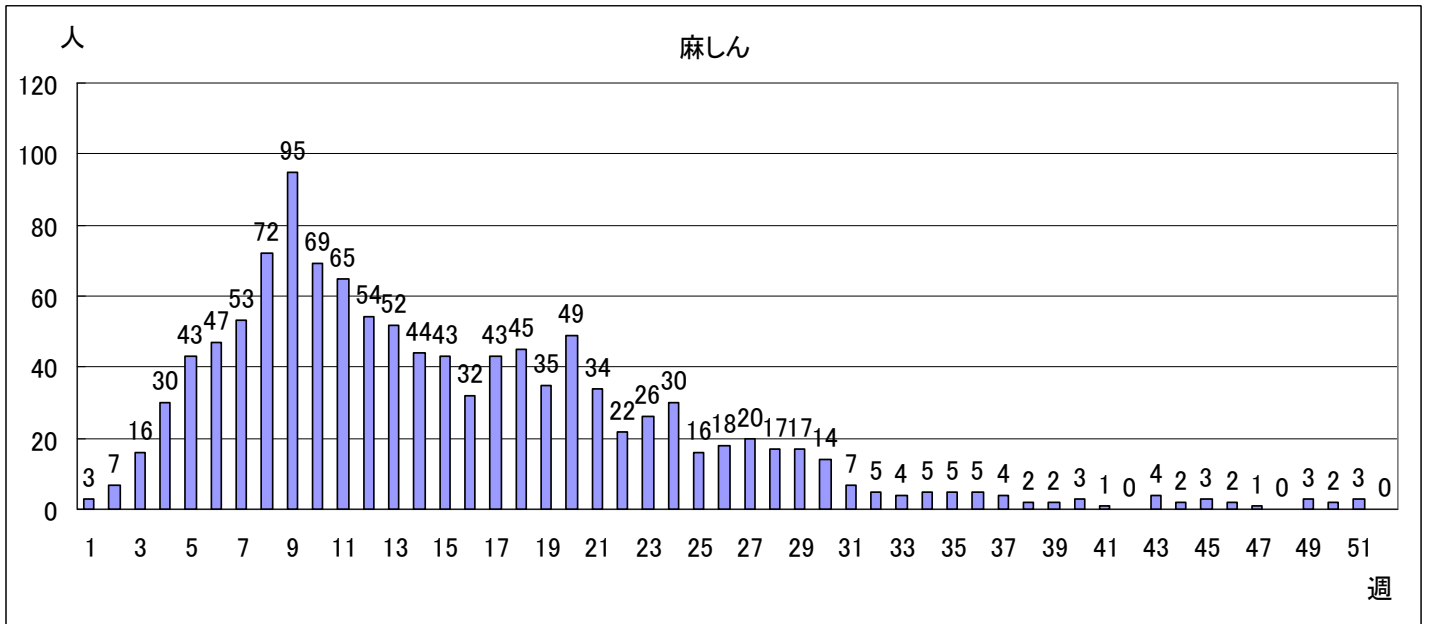


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2008年52週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
みなと	5		
	3		
	6		
新宿区	1		
	2		
台東	10		
	9		
品川区	5		
	4		
	1		
目黒区	3		
大田区	12		
	3		
	3		
	9		
	8		
	4		
	2		
世田谷区	6		
	11	1	
	3		
中野区	3		インフルエンザA型3名、未検査1名（家族全員A型で炎症）。
	19		
	3		
	1		
	6		
	2		
	7		

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
池袋	4		
	1		
北区	9		
練馬区	7		
	3		
	6		
西多摩	8	1	
	14		
	1		15-19歳男性、受診前日に一時的な異常行動あり、リレンザ処方しその後解熱。
	5		
多摩立川	2	1	A型:2名(内1名予防接種済)
	1		47才
	5		
	3		
多摩小平	7		
	5	3	
	13	3	
	26		
	13	1	
	10		
	15		
八王子市	10		
	2		
	13		

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
11/26	溶連菌感染症	7	菌株 (咽頭拭い液)	A群溶連菌(T-12型)	血清型
12/4	血球貪食症候群	60	血清	単純ヘルペスウイルス2型	遺伝子
12/5	ウイルス感染症	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
12/9	急性胃腸炎、咽頭炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
			糞便	ノロウイルス	
12/9	感染性胃腸炎	記載無し	糞便	ノロウイルス	
12/10	感染性胃腸炎	2	糞便	ノロウイルス	
12/10	RSウイルス感染症	5	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
12/11	マイコプラズマ感染症	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス、RSウイルス インフルエンザウイルスAH1型	
12/12	筋炎	3	糞便	エンテロウイルス	
12/12	感染性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス、サポウイルス エンテロウイルス	
12/12	急性細気管支炎	7M	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/12	不明熱	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
12/12	インフルエンザ	16	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
12/13	けいれん重積	記載無し	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
			髄液		
12/13	急性細気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、RSウイルス	
12/15	好中球減少症、急性胃腸炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
12/15	感染性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス	
12/15	感染性胃腸炎	11M	糞便	ノロウイルス、ライノウイルス	
12/15	感染性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス	
12/15	熱性けいれん	4	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/15	単純ヘルペス感染症	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス	
12/16	RSウイルス感染症	1	咽頭拭い液	RSウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
12/16	発熱、上気道炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	遺伝子
12/16	RSウイルス感染症	2	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/16	急性脳症、脳炎	11	咽頭拭い液	ライノウイルス ヒトヘルペスウイルス7型	
12/16	細気管支炎	2M	鼻汁	ライノウイルス、RSウイルス	
12/16	インフルエンザ	50	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
12/16	インフルエンザ	8	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
12/16	インフルエンザ	50	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
12/17	流行性角結膜炎	31	結膜拭い液	エンテロウイルス	
12/17	急性脳症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型, 7型	
12/17	流行性耳下腺炎、咽頭炎	記載無し	咽頭拭い液	ライノウイルス、ムンプスウイルス EBウイルス	
12/17	胃腸炎	1	直腸拭い液	ノロウイルス	
12/17	不明発しん症	10	咽頭拭い液	エンテロウイルス、EBウイルス	
12/17	インフルエンザ	38	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
12/17	インフルエンザ	46	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
12/18	急性扁桃炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/18	不明発しん症	11M	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/18	急性気管支炎	10	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/18	胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス、エンテロウイルス	
12/18	伝染性紅斑	4	咽頭拭い液	パルボウイルスB19	
12/18	インフルエンザ	44	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
12/19	急性咽頭炎	4	咽頭拭い液	ライノウイルス、アデノウイルス	
12/19	急性細気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス RSウイルス	
12/19	手足口病	1	咽頭拭い液	ライノウイルス、アデノウイルス	
記載無し	胃腸炎	1	直腸拭い液	ノロウイルス	
記載無し	インフルエンザ	35	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
記載無し	RSウイルス感染症	1	糞便	ノロウイルス	

臨床診断名別検出結果 2008年51週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	合計
搬入検体数	14	9	10	13	5		1	1		1	1	3	1				23	
アデノ		2	3							1		1					2	9
ライノ		2	2	2						1			1				2	10
ポリオ																		
コクサッキーA群																		
コクサッキーB群																		
エコー																		
エンテロ71																		
その他のエンテロ				3				1				1					3	8
単純ヘルペス																	1	1
水痘・帯状疱疹しん																		
ヘルペス6/7																	7	7
EB												1	1					2
サイトメガロ																		
ムンプス													1					1
麻疹																		
風しん																		
パルボB19											1							1
RS		2	4														1	7
ノロ		2		9														11
ロタ																		
インフルエンザAH1	6	1															1	8
インフルエンザAH3	2																	2
インフルエンザB型																		
デング																		
その他のウイルス				1														1
カンピロバクター																		
サルモネラ																		
腸管出血性大腸菌																		
その他の腸管系病原菌																		
溶血性レンサ球菌							1											1
その他の細菌																		
その他の病原体																		
備考																		

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2008年44週～51週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数	45	51	85	79	42	4	11	8	5	9	1	26	19	6			148	
ウイルス	アデノウイルス		16	19	1	1	2	4	1	1		3	5				14	
	ライノウイルス	1	5	11	5					1		4	3				3	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	1	8	10	15	5	2	1	4	6		7	1	1				11
	単純ヘルペスウイルス					2												3
	水痘・帯状疱疹しんウイルス														1			
	ヘルペスウイルス6/7		1	1							2		8		2			13
	EBウイルス									1	1		6	6				2
	サイトメガロウイルス												1	1				
	ムンプスウイルス					3								13	3			
	麻しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											1	1					1
	RSウイルス		9	51	2													2
	ノロウイルス		2	1	29													
	ロタウイルス																	
	インフルエンザウイルスAH1	13	2															1
	インフルエンザウイルスAH3	11																
インフルエンザウイルスB	1																	
デングウイルス																	1	
その他のウイルス				1														
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																5	
	溶血性レンサ球菌							10										
その他の細菌			1														1	
その他の病原体		1	5															

性器クラミジア感染症

クラミジア・トラコマティス（CT）は戦前、徴兵検査の最多不適原因であったトラコーマの起因菌。顕症性の眼病のトラコーマがサルファ剤等の抗菌点眼薬で消滅し、トラコーマ防止法が廃止された1980年代、モノクロナル抗体による抗原検出によりCTが男子尿道、女子頸管、新生児結膜に感染し、症例数最多の細菌性STIであると判明した。蔓延の理由は、女子で症状が自覚されず、偶然の検出機会、他目的での抗菌薬服用を除いて、治療機会がないことで、若年女子の頸管保菌率は約5%、既往を含む抗体陽性率は約25%に達する。自然治癒はなく、約20%の既往者の大多数に治療歴はなく、感冒等の偶然の服薬で治癒している。感染部位が尿道で、排尿痛の自覚があると思われる男子でも症状に気づかない場合も多い。CT抗体は再感染を防止せず、再感染症例は多い。抗体は治療によるCT陰性化後約2年程度で陰性化する。抗体はHIVと同時に保健所で匿名無料で検査可能で、陽性は必ずしも治療の必要を意味しないが、直近のコンドーム不使用を示唆し、固有のSTIリスクの指標となる。1回の性交による感染伝達率は1/3程度。淋菌と同じく咽頭にも感染するが、咽頭の感染率は淋菌に比べて低い。咽頭からのCT検出には偽陽性があるため、保険適用はSDA法のみ。淋菌とCTとの同時感染症例は多く、同時検出も保険適用。一部のPCRキットで検出不可能のCT株がスウェーデンで検出されているが、日本では未検出。実験的な薬剤耐性株の報告はあるが臨床的な報告例はなく、AZMによる単回投与療法が成立する。妊婦健診で産道感染は減少したが女子陽性率は不変のまま依然高い。

（文責 東京都南新宿検査・相談室長 小島弘敬）